⑵　国内外のネットワーク機能の強化による対流促進

交通がその機能を十全に発揮するためには、道路、鉄道、港湾、空港等がそれぞれの特性に応じて役割分担し、有機的かつ効率的な交通ネットワークを形成する総合的な交通体系を整備する必要がある。高規格幹線道路、北陸新幹線（整備新幹線）、リニア中央新幹線等の高速交通ネットワーク、国際コンテナ戦略港湾等の早期整備・活用を通じた対流の促進を図る。

京阪神都市圏の道路交通状況を改善するとともに、ミッシングリンクを解消し、地域産業の発展にも寄与する広域の高速道路のネットワークを早期に構築する。

近畿圏の強みの成長産業や高いポテンシャルを有する観光産業、またアジアのゲートウェイ機能を基盤としつつ、スーパー・メガリージョンの一翼を担い、ヒト、モノ、カネ、情報の対流を促進するため、東京都・大阪市間を結ぶリニア中央新幹線については、東海旅客鉄道株式会社による整備が着実に進められるよう、国、地方公共団体等において必要な連携・協力を行う。

ストック効果の最大化を図る観点も踏まえ、臨海部と内陸部、都市圏間を結ぶ高速道路ネットワークのミッシングリンクや道路交通のボトルネックを解消し、環状道路や空港・港湾へのアクセス道路、広域高速ネットワークも着実に整備を進め、国内外との対流を促進するとともに、高速道路の料金体系について、ネットワークの整備の進展にあわせて、地域固有の課題等について整理した上で検討を進める。また、中長距離フェリーの活用を促進することで、他圏域との連携強化を図るとともに、東アジアと結ぶ国際フェリーの活用も促進する。

日本海側・太平洋側諸港の機能強化を行い、道路ネットワークとの接続を強化するとともに、海上コンテナの往復利用（ラウンドユース）を促す。また、日本海沿岸地域の高速交通や通信体系等の基盤整備を進め、日本海側の対流を促進する上で、東京都・大阪市間を結ぶ北陸新幹線は必要不可欠な高速鉄道であることから、着実な整備を目指す。さらに、海を介した多様なネットワークの形成による四国圏との交流・連携機能の強化を図る。これらの取組から、日本海側と太平洋側を結ぶネットワークの形成等を通じて日本海・太平洋の２面活用を図る。

関西国際空港について、今後の成長が見込まれるアジア路線、さらには欧米路線など世界の主要都市との航空路線網を充実させ、加えて首都圏を始めとする国内各都市とのネットワークの充実を図ることにより、際内乗継機能の強化を促進するほか、国際物流機能の強化や、ターミナル機能の強化等が期待される。関西国際空港と関西各地を結ぶ道路交通ネットワークの整備や関西国際空港と大阪都心部・観光地等との鉄道アクセスの強化を図る。

我が国と北米・欧州とを結ぶ国際基幹航路の維持・拡大を目指し、国際コンテナ戦略港湾の「集貨※13」「創貨※14」「競争力強化※15」を図る。さらに、地域の基幹産業の効率化や活性化に直結する港湾機能の強化を図る。

⑶　イノベーションを支え、創造性豊かな人材を集積する環境整備

都心での産学連携拠点や連携大学院などの立地により、国内外から人や情報が集まり交流する知的対流拠点の整備を進め、経済、文化、学術等の国際交流を推進し、近畿圏と世界のつながりを深める。また、大学で学ぶ留学生数を増加させるとともに、近畿圏への就職支援を行う。

大学等の魅力を高めることにより若者を惹きつけ、豊富な知的体験の機会を創出する。幅広く起業を促す場の整備に努めるとともに、住宅の低価格、職住近接等の住みやすさやビジネス環境について広く発信するとともに税制優遇措置を活用し、東京の本社機能を近畿圏に移す企業等を支援する取組を進める。

コンテンツ産業※16、あるいは伝統産業等の文化産業も、イノベーションを起こす特徴的な成長産業ととらえて発展させる。

⑷　関西文化学術研究都市等の整備

文化・学術・研究の新たな展開の拠点形成を目指して、関西文化学術研究都市の建設に関する基本方針を踏まえ、関係省庁、地方公共団体、経済界等と連携を取りながら、更なる都市建設を推進するとともに、関西文化学術研究都市等で展開しているスマートシティ関連事業及びヘルスケア関連事業を連携・統合することによりイノベーションを創出し、これらの取組から得られるビッグデータ、オープンデータを利活用した新たな産業の創出を支援する。また、知的対流の拠点として、関西文化学術研究都市、うめきたナレッジキャピタル播磨科学公園都市、彩都（国際文化公園都市）、神戸医療産業都市等の整備を進め、関東の筑波研究学園都市とのナレッジ・リンク※17についても検討を進めるとともに、特色ある研究開発拠点を活用し、国内外の優秀な学生・研究者等が集い就労することを支援する。

２　日本の歴史・伝統文化が集積し、世界を魅了し続ける圏域の実現のための施策

⑴　歴史・伝統文化の継承・活用と新たな地域資源の発掘

国及び地方の関係機関が連携・協働することにより、古代歴史文化に関する研究のさらなる深化を図り、歴史・文化資産をいかした取組を推進する。また、それらの資産の魅力や美しさについて、日本で開催される国際的なスポーツの祭典を契機として、国及び地方の関係機関が連携し、効果的に国内外に広く発信する。

人々の営みやそれが彩なす美しい日常的な風景、長い歴史の中で育まれた地域社会のあり方・精神文化についても保全、継承するとともに、点としての歴史・文化資産のみならず、周辺の建築物の保存や良好な景観の形成・保全による、面としての地域づくりを進める。特に重点的に歴史的風致を維持・向上させる区域については、歴史資産の保存・活用に資する都市公園の整備や無電柱化等も推進しながら、歴史的価値が高い建造物の保全、良好な景観の形成を図る。

近畿圏に幅広く分布する今のところ著名ではない伝統文化や歴史資産を発掘して育み、圏域の財産とするとともに、長い歴史が生み育てた現代建築や都市美、夜景、水辺空間、地域の食文化、芸能等の観光資源も発掘、活用する。また、文化価値の高い歴史的建造物の修復や文化財の保存技術を継承する人材育成を行う。

憩いの空間としての河川や運河等の水辺空間の活用や、舟運の復活・利活用、美しい都市の夜景の観光資源としての活用など、都市空間の地域資源としての魅力向上に向けた取組を推進する。

⑵　広域観光・国際観光の推進

「関西広域観光戦略」を官民一体となって推進してきたところ、2015年には目標値に到達した。今後は更なるインバウンドの取込を目指し、「関西への誘客のための情報発信」と「魅力的な関西観光圏の整備推進」に取り組みながら、訪日外国人旅行者の大幅な来訪増を図る。

国、府県及び市町村が連携して観光客の誘致を図るなどにより、広く分布する観光資源を結び、個性的で多様な魅力ある広域観光のメニューを作り、行政区域にとらわれない広域観光エリアのブランド化を進める。

アジアのゲートウェイとしての空港・港湾において、混雑緩和のためのＣＩＱ受入環境の整備などを積極的に進めていく。さらに、各空港や港湾、拠点駅間のアクセスを改善し、交通結節点等における旅行者の移動環境をより円滑なものとしていくとともに、広域観光を実現するために、府県間や圏域間が連携した観光ルートの交通アクセス整備、広域観光の拠点等における大型バスターミナルや駐車場、宿泊施設の整備等を進める。

急激に高まる外国人旅行者の宿泊需要に弾力的に対応し、年間を通して宿泊施設の十分な供給を図る。国内外からの旅行者の受入環境を整備するとともに、国内外の旅行者に対する観光案内等の人材を育成し、「おもてなし」のレベルを向上させていく。また、地方の消費税免税店数の拡大等により旅行消費額の増大を図るとともに、さらなる観光戦略を検討するために、人や車の移動等に関するビッグデータの集積と分析を進める。

圏域を越えた国内外のクルーズの振興や、クルーズ船を受け入れるための環境整備等を進めるとともに、ニューツーリズム※18やフライ＆クルーズ※19といった新たな旅行形態についての環境整備等の推進及び普及を図る。

自転車による周遊観光の促進や、旅行者と地域のふれあいの場づくりなど、観光を通じて地域活性化に向けた取組を推進する。

ＭＩＣＥ※20の振興はブランドイメージ、都市格の向上、住民生活の活性化、高い経済波及効果等、経済・社会の両面において都市に活力を与えることから、ＭＩＣＥ受入環境の整備の一層の充実・強化を図る。